

主題：ローマ人への手紙第5章から第8章——聖書の核心

メッセージ 2

わたしたちの義認の結果——わたしたちの命であるキリストにある神の満ち満ちた享受

聖書：ローマ1:17, 5:1-11

- I. ローマ書における神の福音に関するかぎとなる言葉と、神の永遠のエコノミーの標語は、ローマ書第1章17節です。この節は、神の福音の構造を啓示しています——「義人は信仰によって命を持ち、そして生きる」（神の義は神の救いの法理的な手続きであり、キリストの命は神の救いの有機的な目的であり、信者の信仰は神の救いの実行上の実体化です）——ハバクク2:2, 4. ローマ5:10. ヘブル11:1, 5-6. ローマ10:17. IIコリント4:13:
- A. 義認は、神の義の標準にしたがってわたしたちを是認する神の行動です。キリストの中へと信じる者は彼らの義認のために、彼らの義としての彼を受け入れます:
1. 信者たちの義は、彼ら自身において彼らが所有する状態ではなく、彼らが結合されたパーソン、すなわち生けるキリストご自身です。義認は信仰によります。なぜなら信仰は信者たちを、神の義であるキリストとの有機的結合の中にもたからずからです。こういうわけで義認とは、キリストが信者たちの義となり（信仰による信者たちと彼との結合において）、また神が信者たちを是認する（信者たちと義であるキリストとの結合のゆえに）事柄です。
 2. わたしたちはキリストの中へと信じる時、神の赦しを受け（使徒10:43）、そして神はキリストをわたしたちの義とし、またわたしたちの義の衣であるキリスト（神を満足させる義）を着て、自分自身の義という汚れた衣を置き換えることによって（イザヤ61:10. ルカ15:22. エレミヤ23:6. ゼカリヤ3:4. Iコリント1:30）、わたしたちを義とすることができます（ローマ3:24, 26）。
- B. わたしたちの義認はキリストの贖いに基づいています。「贖う」という言葉の意味は、当初あなたのものであったのが失われてしまったものを買い戻すことです。したがって、贖いとは、代価をもって何かを再び所有することを意味します——ローマ3:24-25. テトス2:14. Iペテロ1:18-19:
1. 神は代価を払って、わたしたちを贖い、その結果、とてつもなく大きな費用、最高の代価で、わたしたちを再び所有されました。それは神「ご自身の血」であるキリストの尊い血です（使徒20:28. 啓5:9）。キリストが十字架上で死んだ時、彼の血はわたしたちのために永遠の贖いを獲得しました（ヘブル9:12, 14. Iペテロ1:18-19）。
 2. わたしたちは律法ののろいから贖われています。律法ののろいから贖われるとは、律法の結果から贖われることを意味します（ガラテヤ3:13）。究極ののろい、律法の結果は死です。罪人であるわたしたちはだれでも神の義によって罪定めされ、彼の義なる律法にしたがって神によって死の宣告を受けました（エゼキエル18:2

0. ローマ6:23)。

3. 墮落した人による律法を破る死の刑罰には完全な代価が払われました。第一に、わたしたちの身代わりとして、キリストはわたしたちに代わって十字架で死に (I ペテロ3:18, 2:24)、第二に、わたしたちは十字架でキリストと共に死にました (ガラテヤ2:20)。これは確かに福音、良き知らせ、喜ばしいおとずれです (ローマ1:1, 9, 15-17)

C. キリストの贖いのわざとは、神ご自身が来て、神に対する人の罪を担うことです。こういうわけで、代価の支払いを命じる方がそれを支払う方となりました。傷つけられた方が違反を被る者となりました。裁き主が裁かれる者となりました——詩歌、234番、1節。

D. 命は神の救いの目標です。こういうわけで、義認は「命に起因する」のです。義認を通して、わたしたちは神の義の標準に達し、それと一致しました。それによって、彼は今やご自身の命をわたしたちの中へと分与することができます——ローマ5:18。

II. ローマ書第5章1節から11節が啓示しているのは、わたしたちの義認の結果が、わたしたちの命であるキリストにある神の満ち満ちた享受であるということです :

A. これらの節が示しているのは、わたしたちの義認の結果が六つのすばらしいものに具体化されているということです。すなわち、わたしたちの享受のための愛 (5節)、恵み (2節)、平和 (1節)、望み (2節)、命 (10節)、栄光 (2節)。これらの節はまた三一の神を啓示しています。すなわち、わたしたちの享受のための聖霊 (5節)、キリスト (6節)、神 (11節) です。

B. キリストの贖う死を通して、神は罪人であるわたしたちを義とし、また彼の敵であるわたしたちをご自身と和解させられました (1節)。しかも、「わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれている」——1, 5, 10-11節 :

1. わたしたちは悩まされ、貧しく、落胆するかもしれませんが、わたしたちの内側にある神の愛の存在を否定することはできません。キリストご自身である命の路線にとどまるために (ヨハネ14:6前半)、わたしたちは自分自身を神の愛 (ユダ20-21節)、すなわち神ご自身 (I ヨハネ4:8, 16) の中に保つ必要があります。

2. 「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです」。神がまずわたしたちを愛してくださったのは、神の愛をわたしたちに注入し、わたしたちの内側に愛を生み出し、それをもってわたしたちが神を愛し、すべての兄弟たちを愛するようにしてくださったことにおいてです——19-21節。

3. わたしたちは神が与えてくださった愛の霊を燃え立たせる必要があります。それによって、わたしたちは燃える愛の霊を持って、今日の召会の墮落に打ち勝つことができます。わたしたちの霊を燃え立たせるとは、絶えずわたしたちの霊を活用する習慣を建て上げて、わたしたちの霊の中のその霊である主との接触の中にとどまることです——II テモテ1:6-7, 4:22。

C. 「わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ……ます」 (ローマ5:2)。わたしたちが恵み (わたしたちの享受のためのその霊である

キリストにある神)の領域から出てしまったと感じる時はいつでも、わたしたちは祈る必要があります、「主よ、わたしを赦してください。わたしを恵みの領域へ連れ戻してください」。

D. わたしたちは信仰によって義とされ、恵みの領域の中に立っているのです、「わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています」——1節：

1. 神「に対して」平和を持っているとは、わたしたちが信仰によって義とされることによって神へと至るわたしたちの旅がまだ完了しておらず、わたしたちが今もなお神の中へと入る途上にあることを意味します。ルカ福音書第7章によれば、主イエスは多く赦されたので、多く愛した罪深い女(47-48節)に、救われるために「平和の中へ入りなさい」(50節原文)と告げました。

2. わたしたちはいったん義認の門を通ったなら、平安の道を歩く必要があります(ローマ3:17)。わたしたちの思いを霊に付ける時(わたしたちの霊を顧み、わたしたちの霊を用い、わたしたちの霊に注意を払い、神の霊との交わりの中でわたしたちの霊によって神と接触し、わたしたちの霊の中で歩き、生きることによって)、わたしたちの思いは平安になります(8:6)。わたしたちは内側に安息と解放と輝きと慰めの感覚を持ちます(Ⅱコリント2:13)。

Ⅲ. 恵みの領域、わたしたちの享受のためのわたしたちの分け前である神の領域の中で、わたしたちは神の中で勝ち誇り、神の中で歓喜し、神に栄光を帰します。これは、わたしたちが、わたしたちの誇りとして神を持ち、わたしたちの享受と喜びとして歓喜を持つことを意味します。神の中で勝ち誇るとは、「わたしたちは患難の中でも勝ち誇るのです。それは、患難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです」——ローマ5:3-4, 11：

A. 患難は、実は恵みの具体化であり、恵みの甘い訪れです。患難を拒絶することは恵みを拒絶することです。恵みはわたしたちの享受のための、わたしたちの分け前としての神であり、それはおもに患難という形でわたしたちを訪れ、それによって神はすべてのもの(すべての人、すべての事柄、すべての状況、すべての境遇、すべての環境)を共に働かせて益とならせます。すなわち、わたしたちにさらにキリストを得させ、彼をわたしたちの存在の中へと造り込んでいただき、わたしたちが新陳代謝的に造り変えられ、キリストのかたちに同形化されるようにして、全き子たる身分へともたらされるようにします——Ⅱコリント12:7-9、ローマ8:28-29。

B. 患難は忍耐という結果になり、忍耐は練達、すなわち試みられた性格と実証された価値を生み出します(ペリピ2:19-22)。パウロは、彼と彼の同労者たちが「神によって良しと認められ、福音を託された」と言います。神は絶えず彼らの心を吟味し、調べ、試みましたが、それは彼らの福音の語りかけが彼ら自身から出て人を喜ばせようとするためではなく、神から出て神を喜ばせようとするためです——Ⅰテサロニケ2:4：

1. 第Ⅰペテロ第1章7節は、わたしたちの信仰が試されることは、「朽ちる金が火[試みと苦難による火]によって試されることよりもはるかに尊い」と言います。原料のままの金が純化する火の燃焼を受けるとき、だれからも容易に良しと認められた質を得ます——マラキ3:3。

2. 主はわたしたちに火のような試練を通して金の信仰としての彼を得てほしいのです。それは、わたしたちが真の金、すなわち、神聖な性質を伴う神聖な命であるキリストご自身にあずかって、彼のからだを建造するためです。こうして、わたしたちは金の新エルサレムの建造のための純金の燭台となることができます——啓3:18. 1:20. 21:18, 23. II ペテロ 1:4。
3. 主を愛する一部の聖徒たちは、自分たちがある程度の命と光を持っているので、主のために働くにふさわしい者であると考えていますが、彼らは生のままであり、良しと認められた質、すなわち、患難と試みを耐え忍ぶことから生じる、良しと認められた質に欠けています。この質は彼らの供給にあずかった人たちに、幸いな、甘い、心地良さを感じさせます。
4. わたしたちはみな祈らなければなりません、「主よ、わたしを良しと認められた者にしてください」。その時、主はわたしたちを良しと認められる者にするために環境を起こされます。わたしたちはキリストの奴隷ですが、良しと認められることに欠けているのです。この事は神を悩ませ、わたしたちや、兄弟たち、聖徒たち、神の家の者たちに損害を与えます。わたしたちの光とわたしたちの賜物によって、わたしたちは聖徒たちを助けますが、良しと認められることに欠けているゆえに、わたしたちは彼らを傷つけます——マタイ 24:45-51。
- C. 良しと認められることに加えて、わたしたちは望みを持ち（ローマ5:4）、神の栄光の望みのゆえに勝ち誇ります（2節）：
1. わたしたちは恵みの中で立ち、平和の中を歩きますが、まだ十分に栄光の中に、すなわち、表現された神ご自身の中にいません。「わたしたちの受けるつかの間の軽い患難は、ますます卓越した永遠の重い栄光を、わたしたちにもたらす」——II コリント 4:17。
2. あらゆる恵みの神は、キリスト・イエスにあってわたしたちをご自身の永遠の栄光の中へ召してくださいました。わたしたちは今ここでキリスト、すなわち、わたしたちの栄光の望みとして、わたしたちの霊の中に住んでいる方を享受しています——I ペテロ 5:10. I テサロニケ 2:12. コロサイ 1:27. ピリピ 3:21。
3. 主は日ごとにわたしたちを聖別することによって、わたしたち、彼の多くの子たちを栄光の中へと導いています（ヘブル 2:10-11）。そして、わたしたちはイエス・キリストの御顔の中で、心を主に向けることによって、ある段階の栄光から別の段階の栄光へと、造り変えられつつあります（II コリント 3:16-18. 4:6後半）。
- D. わたしたちの苦難においてキリストを享受するとき、彼の命の中で救われつつあり、神のダイナミックな救いの有機的な目標を達成することへ至ります。それは地方召会において表現されるキリストの有機的なからだを生み出し、建造することです。召会において、わたしたちは主の豊富な恵みを享受しますが、平和の神はサタンをわたしたちの足の下に踏み砕き、彼の栄光の表現を得、彼の勝利の展覧を得ます——ローマ 5:10. 12:5. 16:1, 4-5, 16, 20。

ローマ人への手紙第5章1節から11節

- 1 こういうわけで、わたしたちは信仰によって義とされているので、わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています。
- 2 またその方を通して、わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。
- 3 それだけではなく、わたしたちは患難の中でも勝ち誇るのです。それは、患難は忍耐を、
- 4 忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです。
- 5 そして望みは、わたしたちに恥をかかせることはありません。なぜなら、わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれているからです。
- 6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。
- 7 義人のために死ぬ人は、ほとんどいません。あるいは善人のためには、死のうとする人もいるでしょう。
- 8 ところが神は、わたしたちがまだ罪人であった時に、キリストがわたしたちのために死んでくださったことによって、ご自身の愛を、わたしたちに明らかにしておられます。
- 9 まして、今は彼の血の中で義とされているのですから、わたしたちが彼を通して激怒から救われるのは、なおさらのことです。
- 10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。
- 11 それだけではなく、今やわたしたちの主イエス・キリストを通して神との和解を受け、さらに彼を通して神の中で勝ち誇りながら、彼の命の中で救われるのです。